

【天気予報及び概況】

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温及び降水量は、ほぼ平年並みの見込みです。

	平均気温 (℃)	最高気温 (℃)	最低気温 (℃)	降水量 (mm)
2025 年	26.3	30.7	22.9	188.0
2024 年	26.9	31.6	23.1	111.5
2023 年	26.0	30.6	22.5	45.0
1991～2020 年	24.1	28.1	20.7	232.5

※気温は、9月の平均値（気象庁）

【作 物】

1 水管理

これからの管理で、最も重要なのが水管理です。根の活力維持に努め、品質の向上に努めましょう。

(1) 出穂期～出穂期以降

浅水管理（2～3cm）をします。異常高温が続く場合は、かけ流し灌水で地温を下げ、根傷みを防ぎます。

(2) 登熟期

灌水して土壌に水分を与えたら、水は溜めずに、足跡に水がたまっている程度（飽水状態）にします。

(3) 落水期

落水期は収穫前7日程度としますが、収穫作業に支障のない程度に刈り取り直前まで走り水灌水で土壌水分を保ちます。

2 病虫害防除

(1) 斑点米カメムシ類の発生は、平年に比べてやや多いと予想されていますので出穂期の定期防除を必ずしてください。

スタークル顆粒水溶剤2,000倍(収穫7日前まで)を使用する場合は、出穂後10～15日頃に散布してください。多発時には、1回目防除の7～10日後（傾穂期）に追加防除をしてください。

スタークル粒剤3kg/10a（収穫7日前まで）を使用する場合は、出穂後7～10日頃に散布してください。多発時には、1回目防除の7～10日後（傾穂期）に追加防除をしてください。

スタークル剤は、ウンカ類・ツマグロヨコバイにも有効です。

(2) いもち病が発生している場合は、速やかにブラシフロアブル1,000倍（収穫7日前まで）で応急防除をしてください。

3 収穫準備

コンバイン、乾燥機等の点検を実施して、計画的な作業を行ってください。

【品種別収穫適期基準】

区 分	短期あきたこまち	ヒノヒカリ	にこまる
出穂後積算温度 (℃)	900～1,050	900～1,100	1,000～1,150
最長稈黄変率 (%)	85	85	85～90
出穂後日数 (日)	33～37	40～46	42～48

<松本>

【野 菜】

1 さといも

(1) 病虫害防除

ア 疫病

9月は、孫芋の肥大並びに充実期です。台風等の強い風雨により疫病・軟腐病が急激に拡大し葉・茎・親芋を損傷すると、収量減が予想されます。

台風や長雨が予想される場合「ダイナモ顆粒水和剤2,000倍」または「ピシロックフロアブル1,000倍」を散布してください。

9月上旬に出荷予定の圃場は、使用時期に注意してください。

【登録農薬】

農薬名	病害名	濃 度	収穫前日数/回数	特 徴
ダイナモ顆粒水和剤	疫病	2,000倍	収穫21日前まで / 3回以内	予防及び治療効果がある 高温多湿時被害を生じる場合がある
ピシロックフロアブル	疫病	1,000倍	収穫前日まで / 3回以内	予防及び病害進展抑制効果がある 収穫前日まで散布できる
Zボルドー水和剤	軟腐病	500倍	発病前～発病初期	株元から茎葉にたっぷり散布する。

イ ハスモンヨトウ

発生密度を確認して、プロフレア SC 2,000～4,000倍(収穫前日まで／3回以内)で防除してください。

(2) 出荷計画

マルチ栽培は、掘取調査の結果を参考に計画的に収穫してください。

(3) 追肥：露地栽培

9月上旬に「化成44」を30kg/10aを施用してください。また、肥料の吸収量は、次第に低下しますので過剰施肥は控えてください。 <徳永>

2 やまのいも

(1) 灌水管理

極端な乾燥や湿潤にあうと芋の肥大不足や2次生長（肥大）、ひび割れを起こす場合があるので、水管理には生育後期まで注意し土壌を適湿に保ってください。

9月下旬までは定期的に灌水を行い、10月上旬～中旬は、晴天が続く乾燥する場合は、適宜、走水程度の灌水を行ってください。

(2) 病害対策

炭そ病の発病が懸念される時期です。葉が枯れ上がらないようにアミスター20フロアブル等で予防散布に努めてください。台風など強風や大雨後の予防及び炭そ病発生圃場にも、アミスター20フロアブル2,000倍(収穫前日まで／3回以内)を散布してください。

(3) 害虫対策

ハダニ類による吸汁及びヨトウムシやナガイモコガ等の食害による葉面積の極端な減少は収量低下につながります。圃場を巡回し、適期防除に努めてください。

(4) 排水対策

大雨の際、圃場内に滞水が起こらないように、予め排水路の点検をしておいてください。 <三谷>

【果 樹】

1 摘果

(1) 温州みかん

着果と新梢のバランスが良く、後期摘果を実施している樹は、早生温州の着果量が多い樹から摘果を開始し、10月上旬頃を目途に普通温州までの摘果を順次、実施してください。

果梗枝が太く下垂しない果実、果皮が粗い果実、極小果、キズ果、内成り・すそ成り果を摘果し、果皮表面が滑らかな小中玉果を樹冠の表面近くに多く着果させます。思いきった摘果（後期重点摘果）を行い、葉果比20～30程度に調整してください。着果量が少なく樹上選果で対応する樹は、10月以降に大玉果やキズ果を樹上選果してください。

(2) 中晩柑類

小玉果、内成り・すそ成り果、日焼け果、キズ果を摘果してください。

2 灌水

(1) 温州みかん

葉の巻き具合（葉の萎凋が朝になっても戻らない）、旧葉の落葉状況等を見ながら、7～10日間隔で10～20mm（10～20t/10a）を目安に灌水して、適度な水分ストレスを維持します。

(2) 中晩柑類

高温、土壌乾燥が続けば7～10日間隔で20～30mm（20～30t/10a）を目安に灌水を行ってください。 <三谷>

【花き・花木】

1 アネモネの本圃の準備

(1) 土壌消毒の実施

排水・保水性が良く、日当たり・風通しの良い圃場を選定します。バスアミド微粒剤20～30kg/10aを均一に散布して土壌と混和します。散水後、すぐにビニール被覆し、10～14日後にガス抜きを行います。

(2) 元肥の施用（本圃／10a当たり）：苦土石灰…100～120kg、スーパーエコロング413…70kg、ようりん…60kgを施用します。

(3) 畦立て：畦幅120～130cm、畦高15cmが基準です。

2 ラナンキュラス

(1) 播種床の準備：本圃10a当たり100㎡の播種床を用意します。

(2) 元肥の施用（播種床／100㎡当たり）

苦土石灰…10～12kg、石灰窒素…6kg、ようりん…6kgを施用します。

3 シキミ

秋芽伸長期です。新芽に被害を出さないよう適期防除してください。

炭そ病にはペンコゼブ水和剤600倍、アブラムシ類・グンバイムシ類にはスミチオン乳剤1,000倍、サビダニ類にはピラニカEW1,000倍を散布します。

4 観賞用花木の生産振興

- ・ピットスポラム：光沢のある波打ったグリーンの葉、（母の日、9～12月）
- ・ヒムロスギ：クリスマスリースに使う銀緑色の葉（11～12月）
- ・ユーカリポポラス：大きなハート形の葉、定植後4年目から蕾がつき実つきとして出荷できる（リーフ：10月～5月、実：8～9月）

それぞれフラワーアレンジメントに用いられ、安定的な需要が見込まれます。出荷時期は（ ）内です。

9月中旬～10月は定植適期となります。関心のある方は、お問い合わせください。

<浜田>

【畜 産】

<暑熱対策の継続、徹底を>

家畜の適温域の上限は、乳牛で20℃、肉牛や成豚で25℃、採卵鶏で30℃ですが、9月下旬までは最高気温が適温域を大きく超える日が続きます。

家畜に暑熱ストレスが蓄積していると、朝晩が涼しくなっても体力回復に時間を要します。また、体熱放散が不十分だと、日中に上昇した体温が夜間に正常に下がらないことがあります。したがって、9月下旬頃までは家畜の様子や畜舎内温度等も確認しながら、夜間も送風機を運転してください。

また、暑熱期には飲水管理も極めて重要です。飲水量は、発育ステージ、体重、飼料摂取量、妊娠・泌乳の有無、環境温度等の影響を受け、特に暑熱期には寒冷期等と比べ、ブロイラーで2～2.5倍、授乳中の母豚で2～3倍、泌乳牛（25kg/日）で2.5倍増加するとの報告があります。新鮮で冷たい水を十分に飲むことで、体内の熱を下げる効果もあります。給水設備の流量等をこまめにチェックしましょう。早朝の涼しい時間帯を有効活用し、細やかな飼養管理を心がけてください。

<真鍋>